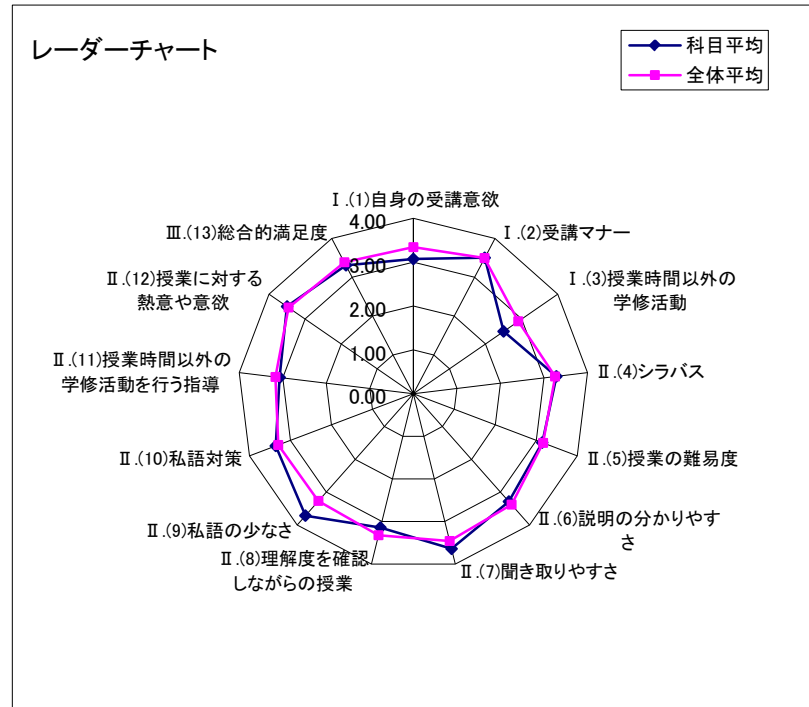


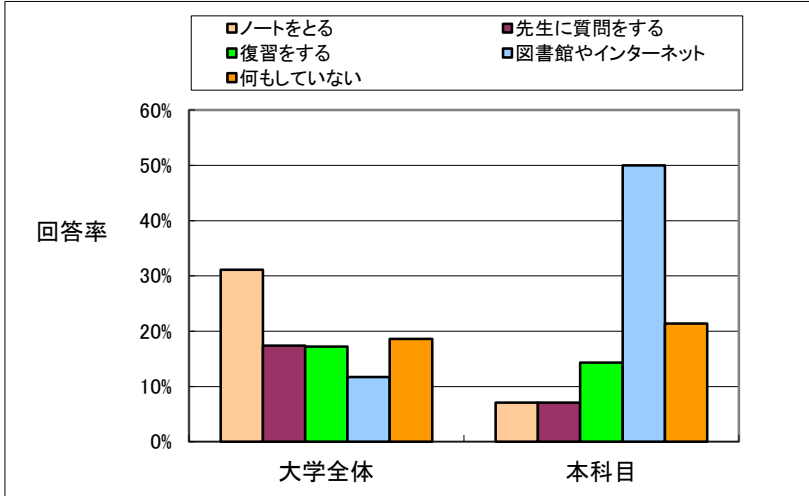
講義科目 授業アンケート結果



	設問No.	科目平均	全体平均
自身の受講姿勢	I.(1)	3.07	3.34
	I.(2)	3.50	3.49
	I.(3)	2.50	2.91
講義内容・方法	II.(4)	3.29	3.26
	II.(5)	3.14	3.16
	II.(6)	3.29	3.38
	II.(7)	3.64	3.46
	II.(8)	3.14	3.32
	II.(9)	3.71	3.27
	II.(10)	3.36	3.30
	II.(11)	3.07	3.17
	II.(12)	3.50	3.46
	総合評価	III.(13)	3.31

※レーダーチャートの平均は4段階評価 4(そう思う)、3(ややそう思う)、2(あまりそう思わない)、1(そう思わない)

〈※複数選択可項目〉		ノートをとる	先生に質問する	復習をする	図書館やインターネット	何もしていない
IV.(14)	授業を理解するための工夫	7.1	7.1	14.3	50.0	21.4



	本科目平均	全体平均
自身の受講姿勢	3.02	3.25
I.(1)~(3)		
講義内容・方法	3.35	3.31
II.(4)~(12)		
総合評価	3.31	3.39
III.(13)		

アンケート結果に対する教員のフィードバックシート

授業年度	2012年度 後期
時間割番号	3215
科目名	レジャー産業論
教員名	

①授業計画の達成度について

始めに、①日本人の労働に対する意識の変化、②近年の社会構造の変化(小泉内閣)と就職に対する大学生の意識の変化、③「社会人基礎力」が問われていることを強く指摘した。今、学生が置かれている状況から、余暇時間の過ごし方が将来の人生を決定することを指摘した。ここまでの導入講義が理念的で難しく、学生が途惑ったのかもしれない。次に、日本人の生活時間調査(NHK調査)から余暇現実の時間の過ごし方を解説した。データの読み取りの視点を自らから考えさせる時間を多くとればよかったと反省している。各論に入ると、自分の興味関心から優れた意見が出て、レポートも優れたものが幾つかあり、ある程度目標は達成できた。

②授業の進め方について

最初3回は、「働くことの意味は?」、「余暇時間とは?」「若者と団塊世代の雇用状況の関係」など、「キャリア形成論」の講義内容に近く、学生時代の余暇時間の過ごし方と「社会人基礎力」の理解と養成の必要性を認識することを原点とした。その具体的統計資料を示し、意見交流した。各論として、スポーツ産業・レジャー施設産業・映画産業・娯楽産業など最近の市場規模動向などから解説した。学生が問題点を指摘し改善策を示すよう質問を投げかけた。出来るだけ時間経過を示し、市場規模の変化、人口動態(年齢構成)を明らかにし、問題点の指摘、成功例、失敗例を具体的にあげて解説した。学生自らが更なる問題点の指摘、違った視点からの分析、改善点を議論できるよう多くの統計的資料を示した。「一歩通行の講義」にならないように、「考えさせる授業」を心掛けた。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

I.(3) 授業時間以外の学修活動の項目のみ2.50で、2点台であったの予想外であった。まじめに受講し、優れたレポートを提出した学生は、ペーパー試験対策の学習よりも長い時間を掛け資料を調べ、問題点を指摘し、改善点を指摘し、更なる課題も指摘した。素晴らしいレポートも幾つもあった。時間を掛けない丸写しのレポートを提出する低空飛行の学生に引きずられたのが残念である。機械的採点のペーパー試験より、レポート試験の方が学習時間を掛けるし、採点側も苦にならない。信頼に依って欲しいものです。図書館・情報センターを利用している。